

糸島市学術研究都市推進計画書（第2期）



令和3年3月
糸 島 市

目次

第Ⅰ章 序論	1
1 糸島市学術研究都市推進計画策定の目的	
(1)九州大学の伊都キャンパスへ周辺部の動向	
(2)誕生して10年を迎えた糸島市の今後	
(3)九州大学と糸島市の連携協力協定	2
2 計画の構成	
(1)策定のコンセプト	
(2)各計画との関係性と骨子	3
(3)推進計画の期間と名称について	
第Ⅱ章 学術研究都市づくりの現状と将来ビジョン	4
1 糸島市の現状と課題	
(1)糸島市の人口と都市基盤整備	
(2)産業構造と財源基盤	
(3)九州大学との連携・交流の活性化	7
2 基本目標	8
(1)コンセプトと4つの重点項目	
①産学官連携による産業の活性化や新産業の創出(産業づくり)	
②知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘(地域づくり)	
③学生・教職員等と糸島市民との交流の促進(人づくり)	9
④快適な生活空間を創造する都市基盤施設等の整備(都市づくり)	
(2)施策のフローと体系	10
第Ⅲ章 基本計画	11
1 産学金官連携による産業の活性化や新産業の創出(産業づくり)	
(1)農林水産業、商工業、観光業等の既存産業の活性化	
①農林水産業の活性化	
②商工業の活性化	12
③観光産業の活性化	
(2)九州大学の研究シーズを生かした研究施設や新産業の立地促進	13
2 知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘(地域づくり)	
(1)地域課題・行政課題の解決と地域資源の発掘	14
(2)SDGsに基づく地域資源を生かした循環型社会の構築	
3 学生、教職員等と糸島市民との交流の促進(人づくり)	
(1)九州大学を活用した市民が学べる機会の創出	15
(2)留学生等との交流による国際感覚の醸成と交流促進	

(3) 学生と市民との連携交流による相互の活性化	
4 快適な生活空間を創造する都市基盤施設等の整備(都市づくり).....	16
(1)九州大学の学生・教職員等の定住促進	
(2)道路交通網の整備と駅周辺の整備.....	17
①主要幹線道路等(中央ルート、学園通線西回りルート)の整備促進	
②波多江インターチェンジ(仮称)の設置促進	
(3)九州大学連携地域の整備	
①分散型地域核「ほたる」の展開	
②前原北部まちづくり.....	18
③志摩東部まちづくり	
④前原インターチェンジ周辺及び国道 202 号バイパス沿線の整備【九州大学連携地域、工業・流通地域】	
(4)伊都キャンパスへのバス路線等の確保	

第IV章 推進計画の推進体制..... 22

1 推進体制

- (1)九州大学と糸島市との連携協力推進協議会
- (2)福岡県、福岡市等の自治体との連携
- (3)九州大学学術研究都市推進協議会との連携
- (4)九州大学と糸島市との連携会議

参考資料

九州大学学術研究都市関連の主な都市基盤整備図

第 I 章 序論

1 糸島市学術研究都市推進計画策定の目的

糸島市では、九州大学が有する知的資源や活力を糸島市の豊富な地域資源や文化と有機的に結び付け、既存産業の高度化や新産業の創出、地域課題の解決等、地域社会の振興に寄与するとともに、九州大学の隣接地を中心に学術研究都市づくりを進めます。また、学生・教職員と糸島市民の交流を促進することで、ワンランク上のまちづくりを目指しています。これらの取り組みを進めるため、「糸島市学術研究都市推進計画（以下「推進計画」という。）」において、次の項目を背景に、基本方針を示すものです。

(1) 九州大学の伊都キャンパスへ周辺部の動向

九州大学伊都キャンパスは、平成3年に糸島地域への移転が決定し、平成30年秋に農学部
の移転を最後に平成18年から続いた移転計画が完了しました。現在、約17,500人も
の学生・教職員等がキャンパス周辺で活動しており「知」の一大拠点
が形成され、人・物・情報等、あらゆる面で糸島市に大きな影響を及ぼしています。

また、平成10年5月に九州大学、福岡市、前原市、二丈町、志摩町、福岡県及び地元経済
界の産官学による「九州大学学術研究都市推進協議会」が設置され、平成13年6月に、九州
大学を核とした周辺のまちづくりの基本となる「九州大学学術研究都市構想」を策定しました。

この構想に基づき、各自治体は、交通インフラ、コミュニティバスの運行、研究所の立地、
企業誘致活動等のまちづくり事業を展開しています。

糸島市では、九州大学の伊都キャンパスへの移転完了を契機に、これまでの九州大学との連
携・交流の取り組みからワンランクアップし、九州大学が持つ知的資源を活用した地方創生や
地域課題の解決など、具体的な取組・成果を出していくことが求められます。

また、本市と九州大学が進める「糸島サイエンス・ヴィレッジ（知の拠点づくり）」や「九
州大学国際村（人と地域の交流の場づくり）」の2つの構想をはじめ、産学金官民が一体とな
って、新しいものを創り出し、発信していく拠点づくりを進めていくなど、100年先を見据
えた真の意味での学術研究都市を構築していく必要があります。

(2) 誕生して10年を迎えた糸島市の今後

平成22年1月1日に、前原市と二丈町・志摩町の1市2町が合併し、人口約10万人、面積
約216Km²の糸島市が誕生し、前原、志摩、二丈地域がそれぞれ持つ地域資源と特色を生か
したまちづくりを進め、令和2年1月1日に10周年を迎えました。

今後、人口減少社会への突入やグローバル化の進展など社会・経済情勢が大きく変化してい
く中、“新しい時代の糸島”をつくりあげ、持続可能な学術研究都市づくりが必要になります。
このため、「第2次糸島市長期総合計画」を策定し、施策「新産業を創出する学術研究都市づ
くり」に取り組み、また、重点課題プロジェクトの1つに「“糸島サイエンス・ヴィレッジ”
実現化」を掲げており、その実現に向けた具体的な取り組みが必要となります。

(3) 九州大学と糸島市の連携協力協定

九州大学伊都キャンパスの開校を契機に、平成18年6月に九州大学と前原市、二丈町、志摩町の間で連携協力協定を締結しました。この協定に基づき、各市町で連携事業を進めてきましたが、糸島1市2町が合併したことから、平成22年5月に九州大学と糸島市において改めて「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定」を締結しました。

当初の協定では、九州大学が糸島地域を一方向的に支援する内容であったことに対し、現在は、糸島市を九州大学の実証実験フィールドとすることや、学生や留学生との交流を通じた支援等、相互連携を行う内容となっています。

また、連携・協力の円滑な推進と、達成状況の確認、実践報告会の開催、情報の共有化等を相互に確認し、事業評価を行う「九州大学と糸島市との連携協力推進協議会」を設置しています。

■連携協力協定に掲げる九州大学と市が連携協力していく事項

- *九州大学と糸島市が有する資源の相互活用
- *九州大学と糸島市民との交流の促進
- *伊都キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり

2 計画の構成

(1) 策定のコンセプト

この推進計画は、これまでに策定された「九州大学学術研究都市構想」、「糸島市学術研究都市推進計画（第1期）」の趣旨を尊重した計画とします。

また、糸島市のまちづくりの方向性を示す「長期総合計画」に基づき、「学術研究都市づくり」を積極的に推進するための計画とします。

さらに、平成22年5月に締結した「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定書」の趣旨を尊重し、九州大学が有する知的資源や活力と、糸島市の豊富な地域資源や文化を有機的に結び付け、産業の高度化や新産業の創出、地域課題の解決等、地域社会の振興、伊都キャンパス周辺地域における学術研究都市づくりに寄与する計画とします。

(2) 各計画との関係性と骨子

① 九州大学学術研究都市構想

九州大学の伊都キャンパス移転を契機に、平成13年6月に「知の創造空間」をめざす新たな学術研究都市の基本方向を示した構想を、九州経済連合会、福岡県、福岡市、糸島市、九州大学と共に策定。この構想との整合を図りながら、現状に合致した内容とします。

② 第2次糸島市長期総合計画

令和3年度から12年度までの“新しい時代の糸島”をつくりあげていくため、第2次長期総合計画を策定。「糸島サイエンス・ヴィレッジ」実現化」は、この計画の重点課題プロジェクトに位置付けられており、九州大学周辺の学術研究都市づくりにおいて「ワンランク上のまちづくり」を目指します。

③ 糸島サイエンス・ヴィレッジ構想

平成29年の研究事業において、研究者や企業関係者が集い新たなことを生み出すオープンイノベーション機能、ベンチャーを育成する機能、研究者たちの滞在・生活利便機能、大学・企業・地域の交流機能などを有する糸島サイエンス・ヴィレッジ構想を策定。この構想の実現が、第2次長期総合計画で重点課題プロジェクトに位置付けられています。

④ 糸島市九州大学国際村構想

九州大学の留学生や外国人研究者を呼び込み、地域の国際化、国際交流、国際理解等の促進につなげるため、留学生等の居住・宿泊、生活利便、交流、コンベンション施設等を九州大学の南側に立地導入する九州大学国際村構想を平成29年に策定。第2次長期総合計画からの個別計画である糸島市多文化共生推進計画と併せて、国際化に対応したまちづくりを進めていきます。

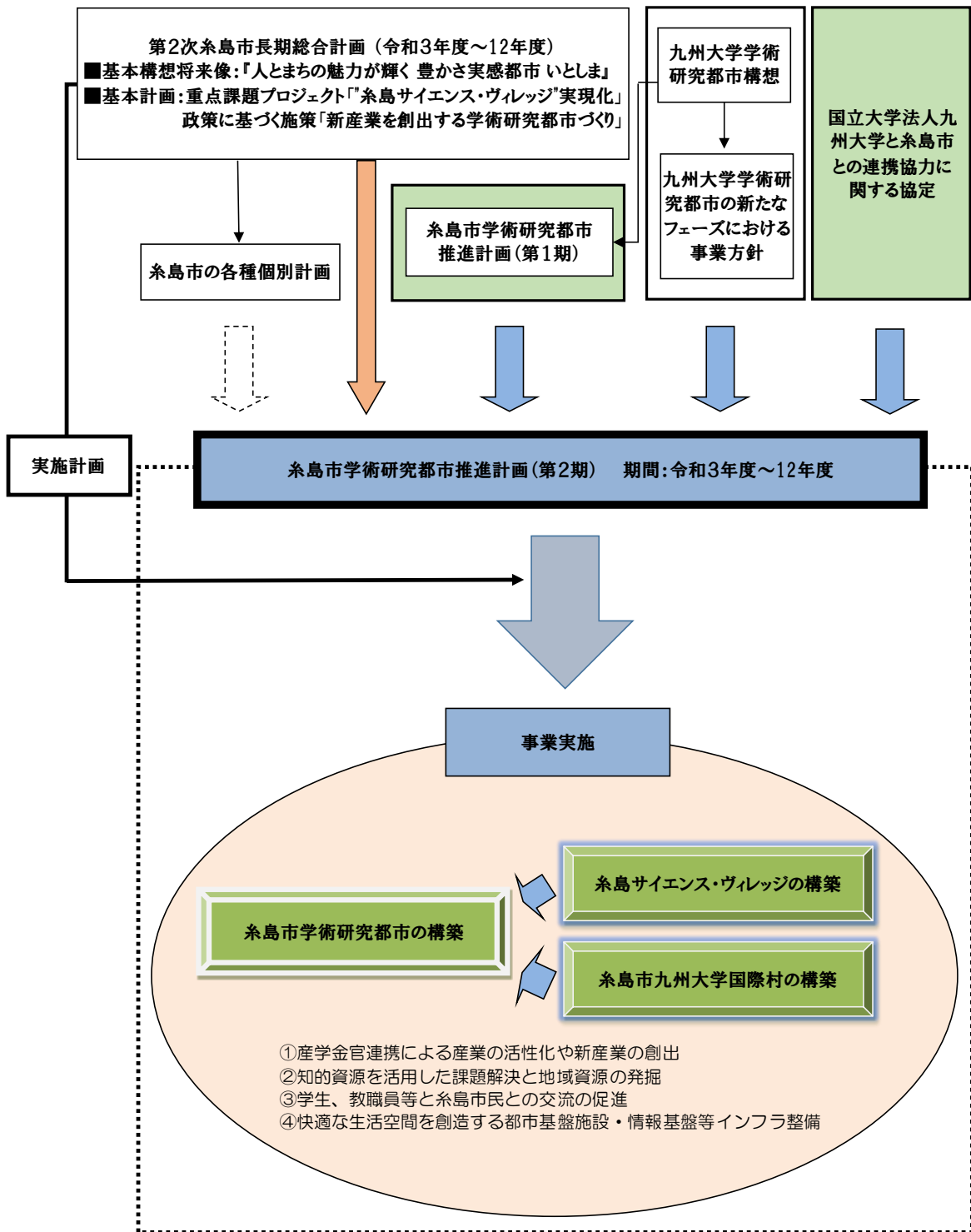
(3) 推進計画の期間と名称について

この計画の期間は、令和12年度を目標年次とし、令和3年度から10年間とします。

また、平成23年3月に策定した糸島市学術研究都市推進計画を「第1期」とし、この計画を糸島市学術研究都市推進計画（第2期）として取り組みを進めます。

なお、この計画の前半5年間で終了する令和8年3月で時点修正を行います。

【図表 1】各計画との構成図



第Ⅱ章 学術研究都市づくりの現状と将来ビジョン

1 糸島市の現状と課題

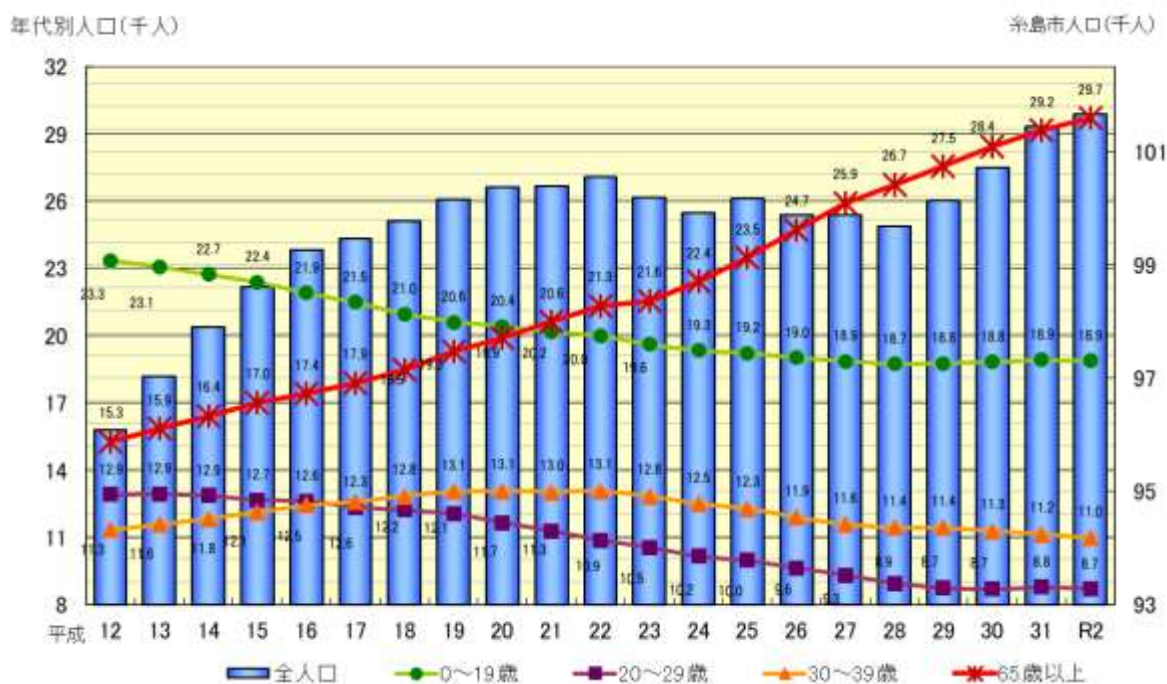
(1) 糸島市の人口と都市基盤整備

糸島市の人口は、平成22年1月の本市誕生以降、減少傾向となり、平成25年度に10万人を割り込む状況となりましたが、その後、九州大学の伊都キャンパスへの移転完了、土地区画整理事業や市内各地での小規模開発の進行など、受け皿の整備が加速したことで再び人口が増加傾向に転じ、令和2年度には第1次糸島市長期総合計画の目標人口である102,000人を達成しました。しかしながら、以前として高齢化が進展している状況です。【図表2】

第2次糸島市長期総合計画では、新たな居住空間の整備や人口減少地域対策、子育て支援などによる更なる人口増加を目指し、令和12年の将来人口を104,000人と設定しました。

新たなまちづくりが進行する中で、産業の創出を図るとともに、都市機能の集積や産業連携が図られやすい用地配置や道路ネットワークの整備が必要です。

【図表2】 これまでの人口と年齢階層別人口推移



【糸島市住民基本台帳より抜粋】

(2) 産業構造と財源基盤

糸島市の産業構造の特徴は、第一次産業の比率が高いことにあり、福岡都市圏内で比較しても突出しています。【図表3】

また、福岡都市圏の他市との財政状況を比較すると、糸島市は、人口一人当たりの市民所得が低い状況にあり、財政力を向上させるためには、ブランド糸島の確立はもちろんのこと、九州大学の資源などを生かした地域経済の活性化と学術研究都市づくりへの対策が必要です。

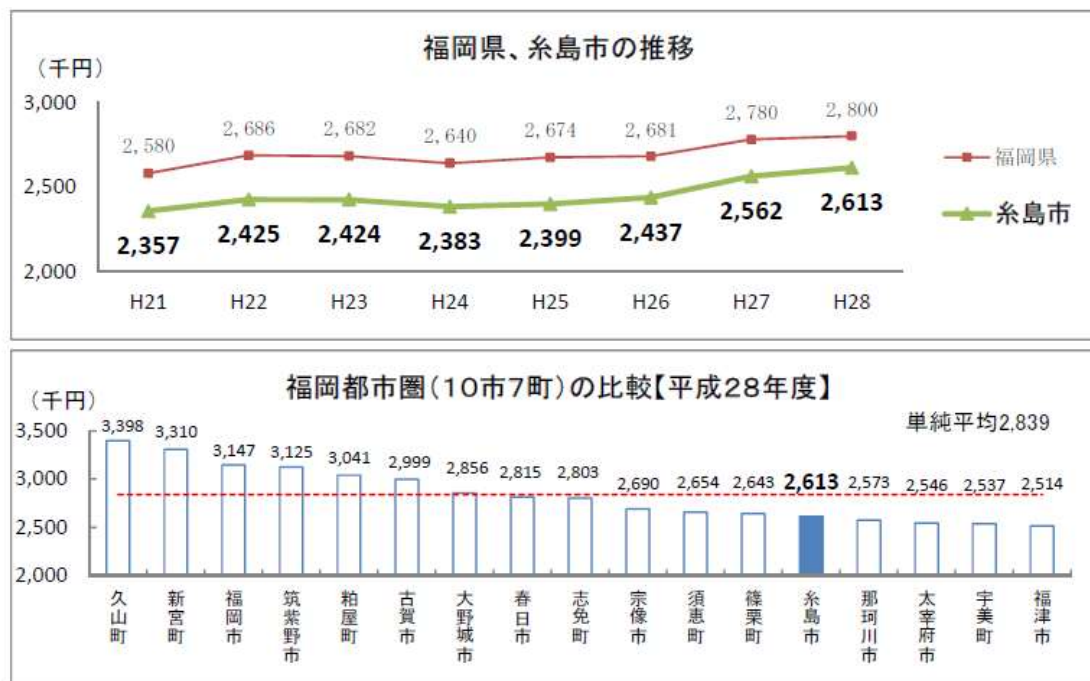
【図表4】

【図表3】産業別就業人口

		第1次産業	第2次産業	第3次産業
糸島市	17年度	4,802 (10.3%)	9,019 (19.3%)	32,596 (69.6%)
	22年度	4,095 (9.3%)	7,837 (17.8%)	32,082 (72.9%)
	27年度	3,926 (9.0%)	7,943 (18.1%)	31,985 (72.9%)
筑紫野市	17年度	714 (1.6%)	8,013 (18.6%)	34,449 (79.8%)
	22年度	611 (1.4%)	7,429 (17.1%)	35,361 (81.5%)
	27年度	680 (1.5%)	8120 (18.2%)	35,790 (80.3%)
古賀市	17年度	727 (2.8%)	7,025 (26.8%)	18,429 (70.4%)
	22年度	564 (2.1%)	6,914 (26.4%)	18,745 (71.5%)
	27年度	570 (2.2%)	6,800 (25.9%)	18,906 (72.0%)
宗像市	17年度	1,983 (4.8%)	8,074 (18.8%)	30,821 (75.4%)
	22年度	1,599 (4.1%)	8,036 (20.4%)	29,825 (75.6%)
	27年度	1,413 (3.4%)	8,801 (21.3%)	31,134 (75.3%)

(出典：国勢調査)

【図表4】福岡都市圏と本市の財政状況



資料：福岡県調査統計課「市町村民経済計算報告書」

(3) 九州大学との連携・交流の活性化

九州大学との連携事業は、合併前の平成21年度に1市2町合計92事業でしたが、その後も毎年100件程度の連携事業を継続しています。【図表5】

特に、農業分野、教育分野での研究や交流等が盛んです。しかし、今後、九州大学が我が国の基幹総合大学であることを生かし、比較的連携が少なかった福祉、医療、まちづくり分野等での連携強化が重要です。

また、学生や留学生の定住を促進するためには、市民と学生や留学生が継続的な連携・交流を深め、お互いの信頼関係を築く取り組みを進めなければなりません。

【図表5】九州大学との連携事業一覧

連携の項目	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	合計
連携研究助成事業	6	10	9	8	9	9	9	10	6	7	83
その他研究関係	19	14	12	17	15	13	14	18	15	12	149
交流関係	20	32	31	32	30	23	18	26	22	11	245
地域活性化・まちづくり	12	10	8	12	10	8	7	9	12	10	98
講座等	25	32	31	32	27	30	29	20	24	23	273
委員の就任	11	8	14	15	18	15	21	14	17	20	153
その他	2	10	7	11	13	14	15	14	12	14	112
合計	95	116	112	127	122	112	113	111	108	97	1113

2 基本目標

(1) コンセプトと4つの重点項目

糸島市が持つ豊かな自然環境や文化・歴史等の地域資源と九州大学が持つ世界的な知識をさまざまな場面で融合・連携させ、多くの九州大学関係者が市民と積極的に交流することで、糸島市長期総合計画の将来像「人とまちの魅力が輝く豊かさ実感都市 いとしま」を実現します。

そのために、推進計画の骨格である「①産学金官連携による産業の活性化や新産業の創出」、「②知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘」、「③学生・教職員等と糸島市民との交流の促進」、「④快適な生活空間を創造する都市基盤等の整備」の視点をもって推進していきます。

① 産学金官連携による産業の活性化や新産業の創出（産業づくり）

- a 九州大学の知的資源と市内外の企業や団体との連携により、市の農林水産業や商工業、観光業等の既存産業の活性化を図ります。特に、市の基幹産業である農林水産業において、ロボット技術や情報通信技術（ICT）を活用した省力化や高品質生産の実現化等を図るなど、持続可能な産業となるよう積極的に促進します。
- b 九州大学の知的資源や研究シーズと、県が立地を進めた「水素エネルギー製品研究試験センター」やコンピューター上で設計したLSI（大規模集積回路）を試作、研究する「三次元半導体研究センター」と開発した先端半導体の評価や分析を行う「社会システム実証センター」を生かし、これらと関連する企業や研究所の誘致を促進します。
- c 糸島市は、福岡都市圏に属しながら自然も豊かであり、九州大学が立地するという地理的メリットを生かし、九州大学に関連する研究施設やベンチャー企業などが集積する「糸島サイエンス・ヴィレッジ」の構築など、人や地域資源、研究シーズを活用した新産業の企業立地を促進します。

② 知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘（地域づくり）

- a 市民が安心して暮らせるように、地域や行政が抱える防災、医療、福祉分野等の課題を解決することが求められているため、九州大学の研究者が市内を実証実験のフィールドとした課題解決につながる研究を積極的に取り組んでもらえるよう働きかけます。
市民の郷土意識の醸成には、魅力ある地域資源の再発見等、住んでいる地域に対する誇りを持ってもらうことが重要なため、九州大学の知的資源や学生等の力を活用し、地域資源の掘り起こしを進めます。
- c 地球温暖化等の影響により異常気象等が深刻になり、温室効果ガスを排出する化石燃料に頼らない環境にやさしい脱炭素化社会が求められているため、九州大学の持つ専門的知識を生かし、再生可能エネルギーの研究等、市の特性に即した研究によって、独自の環境資源や風土を活用した循環型社会の構築を目指します。

③ 学生・教職員等と糸島市民との交流の促進（人づくり）

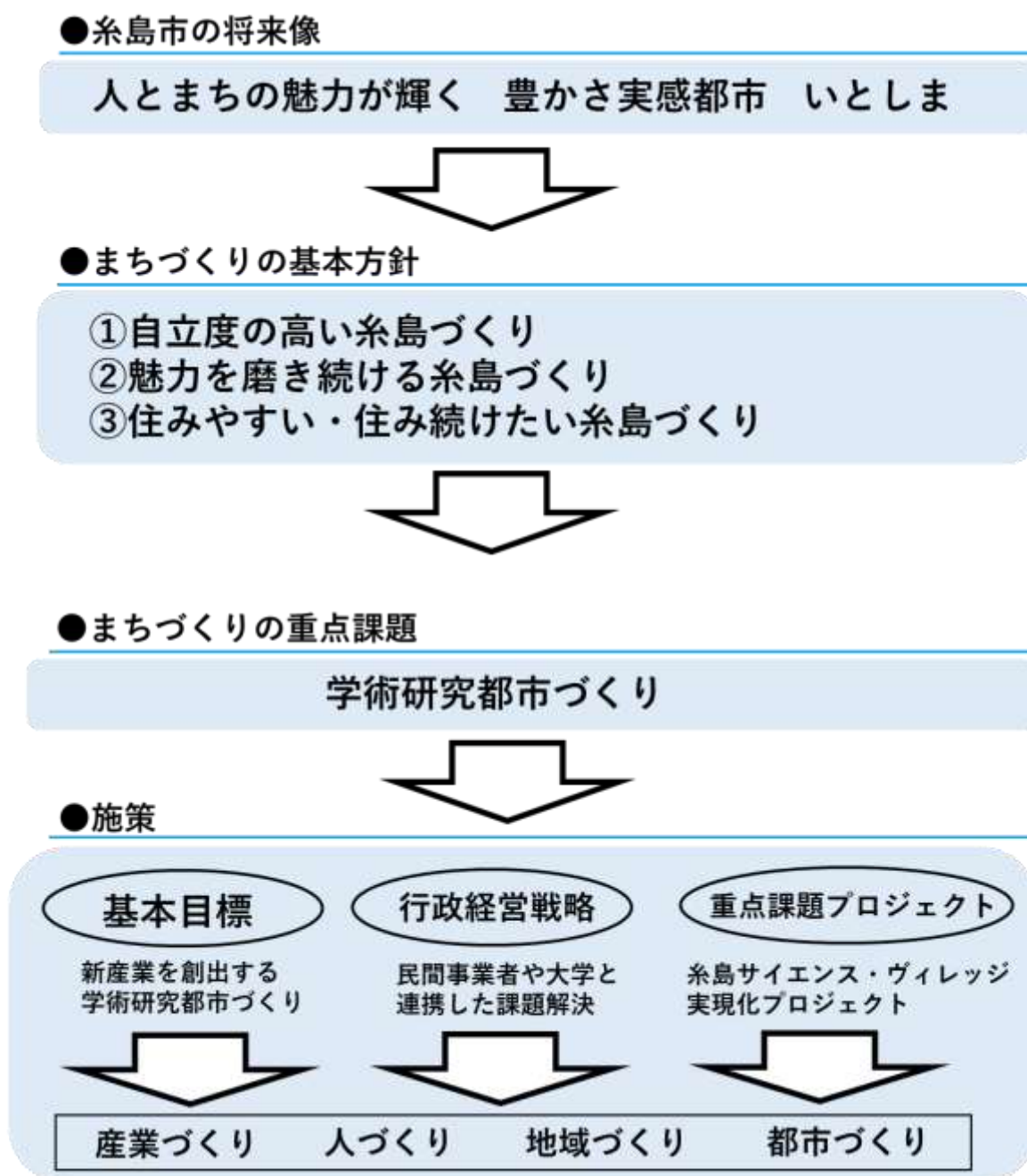
- a 九州大学は国内有数の基幹総合大学であり、あらゆる分野の研究や教育が行われている環境を生かした生涯学習の環境を整備し、市民の生きがいの向上を図ります。また、教職員や学生との交流等を通し、「九州大学がある“まち”」という市民意識の醸成も図っていきます。
- b 九州大学では現在約 2,300 人の留学生が学んでいるため、留学生と市民との交流を促進し、国際感覚の醸成を図ります。
- c 九州大学の学生等に、各地で行われている各種イベントに参加してもらい、地域の活性化と交流の促進を図ります。
- d 九州大学と教育機関とのネットワークを生かし、交流や情報交換を通して、市内小中学生の学習意欲の向上や教育環境の充実に向けた取り組みを促進します。
- e 九州大学と市の相互の人的な交流を通じ、円滑な交流の促進を図ります。

④ 快適な生活空間を創造する都市基盤等の整備（都市づくり）

- a 九州大学への人・物・情報のアクセスを向上し、さらに、市内の交通混雑を解消するため、中央ルート及び学園通線西回りルートの整備を促進します。
- b 研究・開発機能（起業のためのインキュベーション施設など）に加え、大学の研究者や民間企業、地域住民が自由に集い交流し、意見や情報を交換することで新たなものを生み出すオープンイノベーション機能や自然と調和した快適な生活機能を備えた「糸島サイエンス・ヴィレッジ構想」の実現化を図ります。
- c 九州大学の留学生や外国人研究者を呼び込み、地域の国際化、国際交流、国際理解等につなげるため、留学生等の居住・宿泊施設、生活利便施設、文化・交流施設、研究・コンベンション施設等の立地に向けた「糸島市九州大学国際村構想」に基づくまちづくりを進めます。
- d 固定資産税の特例制度を活用した企業や研究所等の立地を促進するため、上位計画で位置づけている九州大学連携地域を計画的に整備します。
- e 九州大学の学生、教職員等に加え、九州大学に関連する研究所、企業立地に伴う研究者や従業員の居住の受け皿として、九州大学隣接部の土地区画整理事業や地区計画を促進します。
- f 今後の学生、教職員等への居住促進により、JR 筑前前原駅や波多江駅等と九州大学を結ぶバス路線の増便や新しいルートの整備等について検討します。

(2) 施策のフローと体系

【図表6 体系図】



第Ⅲ章 基本計画

1 産学官連携による産業の活性化や新産業の創出（産業づくり）

九州大学は、我が国の基幹総合大学として、質の高い高等教育と研究活動を誇る「世界的な知の拠点」であり、優秀な研究者をはじめ、無限の可能性を秘めた学生や留学生たちが世界各国から集まり、世界レベルの研究と人材を有しています。そのため、各研究分野の最先端の技術、知識が開発・蓄積され、市への波及効果は計り知れないものがあります。

このようなことから、市の自然環境や農林水産物の強みを生かし、農林水産業の振興に取り組むとともに、商業、工業等あらゆる産業分野において九州大学と連携し、技術や新商品の開発、あるいは新産業や新規ビジネスの創出を図り、“ブランド糸島”を構築できるよう、大学と企業・市民をつなぐ仕掛けづくりや支援体制を整備します。

また、糸島リサーチパークをはじめ、平成29年度に九州大学と策定した「糸島サイエンス・ヴィレッジ構想」等、大学の知的財産を実用化に結び付ける企業・研究施設群等の立地を進め、それらを核とした関連企業の連鎖的な立地やベンチャー企業の育成を促進します。

（1）農林水産業、商工業、観光業等の既存産業の活性化

① 農林水産業の活性化

九州大学の農学部等と連携し、市の基幹産業である農林水産業の振興を図ります。まずは、自然環境の保全と資源循環型農業等により、安心・安全な売れる農林水産物をつくる新しい経営のスタイルの確立を目指し、ブランド力向上につなげます。同時に、農林水産物の付加価値を高めるための食品製造・加工業の立地や、農林水産業振興に欠かせない担い手の育成、スマート農林水産業を進めます。

また、九州大学と連携した農業振興団体として、農林水産業を軸に糸島地域の創造と活性化を図ることを目的に、九州大学農学研究院、市内農業者、JA糸島、福岡県福岡普及指導センター、糸島市で構成する「糸島農業産学官連携推進協議会（通称：アグリコラボいとしま）」が平成22年に結成しました。

さらに、九州大大学院農学研究院がブドウの新品種として開発した「BKシードレス」の産地化を目指し、糸島独自のブランドとして、色合いや糖度（18度以上）等の基準をクリアしたものを「あま伊都」として糸島農業協同組合を通して伊都菜彩で販売されています。

今後、これらの実績も踏まえ、糸島市の農林水産業の振興に向けた取り組みを推進します。

【 主な取組 】

- 糸島農業産学官連携推進協議会（アグリコラボいとしま）の機能充実
- 農林水産物の高付加価値化、6次産業化、販路拡大や流通体系の確立
- 高性能機械の導入、ICTやロボットなどの先進的な技術の導入
- 意欲的で優れた経営感覚を持った農林水産業者の育成
- あま伊都（BKシードレス）等の農林水産物のブランド化
- 「九州大学大学院生物資源環境科学府附属水産実験所」の糸島市への誘致

② 商工業の活性化

商工業振興計画との整合を図りながら、九州大学と連携し、商工業者が経営革新を行う新規事業に対するがんばる中小企業応援補助金等により、商工業の活性化を図ります。同時に、九州大学との連携による新商品の開発やサービスの高付加価値化などにより、地域経済の活性化を促進します。引き続き既存企業の振興とともに、農商工連携や福岡市近郊都市の優位性を生かし、食品製造業等、各種製造業の立地を促進し、創業支援や創業しやすい環境づくりに取り組みます。

また、食品加工事業者と農林水産事業者等が気軽に交流し、相互に連携することにより、地元の食材や人材、技術等それぞれが持つ経営資源を有効に結び付け、新商品開発や販路開拓、地域ブランドの創出等を図るための取り組みを進めています。

さらに、JA糸島・九州大学・糸島市の産学官連携により開発した6次化商品「まる糸ラーメン」は、糸島産100%のラーメンを使用した麦の風味を活かしたコシの強い半生麺が人気となり、伊都菜彩等で販売しています。

【 主な取組 】

- 市内の企業・事業者間での情報共有や連携による市内受発注の拡大
- 産業間・産学金官連携などによる商品・サービスの高付加価値化
- 新規事業や創業時の経営課題の解消や経営力の向上に向けた支援制度の充実

③ 観光産業の活性化

九州大学を観光資源のひとつと捉えるなど、地域資源を生かした観光の振興、観光の成長産業化を図ります。観光客の滞在時間の延長や宿泊客の増加などにつながる取り組みを推進し、消費活動の拡大を図ります。観光を基軸とした産業間の連携を強化することで市内消費の拡大を図り、地域経済の活性化につなげていきます。

また、地域資源を生かした体験型観光メニューなどの旅行商品の開発や情報発信等を行う糸島版DMOの設立について、平成31年に（一社）糸島市観光協会が候補法人に登録されました。

さらに、九州大学と連携し作成した「EXPLORE ITOSHIMA」は、留学生が自ら取材し、外国人目線でおすすめスポットを紹介する外国人観光客向け英語版観光冊子を糸島市観光協会や九州大学内に置いています。

【 主な取組 】

- DMOを中心としたマーケティングに基づく体験型観光の充実
- 九州大学国際村構想による国際ホテル等を活用した滞在時間の延長や消費活動の拡大
- 観光客の移手段の確保や観光ガイド等おもてなし環境の充実
- いとしま国際観光大使による観光情報の発信

(2) 九州大学の研究シーズを生かした研究施設や新産業の立地促進

九州大学の国立大学法人化に伴い、企業との共同研究・受託研究、社会貢献事業に積極的に取り組んでおり、企業側も大学と連携し、大学の研究成果及び研究シーズの活用を考える企業が増加しています。

糸島リサーチパークでは、福岡県が主体となり、九州大学の世界をリードする研究施設である「水素エネルギー製品研究試験センター（HyTReC）」新試験棟「CRADLE」、さらに、コンピューター上で設計したLSI（大規模集積回路）を試作・研究する「三次元半導体研究センター」と、開発した先端半導体の評価や分析を行う「社会システム実証センター」を誘致しています。

また、「水素エネルギー製品研究試験センター」に近接する南風台・美咲が丘団地では、約150世帯に家庭用燃料電池システム（エネファーム）を設置し、水素エネルギーを利用した世界最大のモデル都市「福岡水素タウン」として、平成20年度から平成27年度まで実証実験が行われました。

これらの研究施設の立地や社会実証実験の取り組みを生かし、水素エネルギーや半導体に加え、有機ELやナノテクバイオなど世界最先端の研究・開発クラスターの形成を、九州大学、福岡県、OPACK等と連携しながら、九州大学連携地域へ産学官連携施設や研究試験施設等、関連企業の集積を図ります。

【 主な取組 】

- 九州大学やOPACKなどと連携した九州大学連携地域への研究機関や関連企業等の誘致
- 立地企業への固定資産税の一定期間免除などの支援
- 九州大学連携地域に都市計画法に基づく地区計画や区域指定などの取り組み

2 知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘（地域づくり）

健康、医療、福祉、防災、環境問題等の地域課題や行政課題への対応、また、地域の魅力向上や活性化のため、市民の郷土意識や知的好奇心の醸成、新たな観光資源等、埋もれている地域資源の発掘等も求められています。

このような中、九州大学と糸島市との協定では、「九州大学が有する知的資源や活力と、糸島市の自然豊かな地域資源や文化を有機的に結び付け、産業の高度化や新産業の創出、地域課題の解決、教育研究活動及び診療活動の進展等、地域社会の振興に寄与する。」との目的が規定され、「九州大学と糸島市が有する資源の相互活用」「九州大学と糸島市民との交流の促進」「伊都キャンパス周辺地域の環境整備とまちづくり」を連携協力事項として掲げています。

協定の趣旨に沿い、糸島市の地域課題や行政課題、地域資源の発掘等について、九州大学の持つ専門的知識を最大限に活用するとともに、糸島地域を実証実験のフィールドとした研究の促進を図ります。

(1) 地域課題・行政課題の解決と地域資源の発掘

九州大学と本市は地域課題や行政課題の解決、また地域資源の掘り起こしに向けて、現在でも多くの連携と交流が行われています。今後も協定大学等課題解決型研究事業を有効活用するとともに、研究成果の実現化に向けた取り組みを進める等、連携と交流を促進します。

【 主な取組 】

- 地域課題・行政課題の解決に向けた連携研究と研究成果の実用化
- 長期総合計画重点課題プロジェクトや各分野の個別計画に対応した研究事業の実施
- 大学・企業・地域住民等の交流の場の創出などイノベーションの推進
- フレイル予防事業の推進及び高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施

(2) SDGs に基づく地域資源を生かした循環型社会の構築

市の大きな魅力の一つは、森林、田園、海等の豊かな自然環境です。また、国連が提唱するSDGs（持続可能な開発目標）の流れの中、森林資源や農業生産における廃棄物、風力等の地域資源を活用した再生可能エネルギーの利用等、循環型社会の実現が求められています。

このような状況の中、九州大学では、木材や竹のチップ化による燃料化、農業生産における廃棄物の飼料化や肥料化、バイオマスによる発電、風力発電を効率的に行う「風レンズ」等の研究や実証実験が行われており、これらを利用した循環型社会の構築を図ります。

また、温室効果ガスの排出量が少ない太陽光や水力、地熱等の再生可能エネルギー等の活用において、効率的で効果的な成果を得るため、九州大学と市が組織的に連携し、研究を進めることを検討します。

【 主な取組 】

- 温室効果ガス削減のための再生可能エネルギー利用設備の導入推進
- 大学などと連携した市民の環境に対する意識啓発及び環境教育の充実
- さまざまな資源を活用したエネルギー効率を上げる研究事業の実施

3 学生、教職員等と糸島市民との交流の促進（人づくり）

九州大学と糸島市との協定では「九州大学と糸島市民との交流の促進」を連携協力事項として掲げ、平成 17 年 10 月の伊都キャンパスの開校以降、市民と九州大学の学生・教職員等との交流は年々盛んになっています。

市の学術研究都市の実現には、市民、行政と九州大学がより良い信頼関係を築くことが基礎になるため、留学生を含む学生・教職員等と市民との交流を通じ、相互理解を深めることが不可欠であり、今後とも一層の交流の推進を図ります。

(1) 九州大学を活用した市民が学べる機会の創出

九州大学は地域に開かれた大学づくりを目指しており、公開講座等の実施など、市の生涯学習などの進展に寄与しています。

また、九州大学教員による中学生向けの模擬授業、九州大学の学生が中学生の学習支援を行う「伊都塾」や小学生の学習応援を行う「九大寺子屋」等を開催しており、市内小中学生の学力向上を図ってきました。

これらの市民に九州大学を身近に感じてもらえる取り組みは、市民の高い評価を受けていますので、今後とも、今まで以上に内容の充実を図るとともに、継続して実施していきます。

【 主な取組 】

- 九州大学教員による公開講座や講演、体験学習などの実施
- 九州大学学生による小中学生の学習応援「伊都塾」、「九大寺子屋」の実施・拡大
- 市との共同研究成果等を発表する機会の創出

(2) 留学生等との交流による国際感覚の醸成と交流促進

九州大学では、文部科学省のスーパーグローバル大学創成支援を受けて国際化を進め、留学生の受け入れ数は年々増加傾向にあり、アジアを中心に世界100程度の国・地域から2,500人前後の留学生が学んでいます。

また、市では国籍や文化、生活習慣などの違いにかかわらず、全ての市民にとって暮らしやすいまちづくりを進める「糸島市多文化共生推進計画」、泊カツラギ地区を中心に海外からくる留学生や研究者を温かく迎え入れ、地域との共生を進める「糸島市九州大学国際村構想」を定めています。

このように、市民にとって国際感覚が醸成されやすい環境の中で、九州大学の留学生等が市民まつりや各種イベントなどを通して交流することにより、異文化に対する相互理解の向上が求められています。

今後は、糸島市国際交流協会との連携・協力による留学生等と市民の交流をより一層促進します。

【 主な取組 】

- 糸島市国際交流協会等と連携した留学生等の市民まつり等への参加促進
- 交流機会や活動の充実による留学生等と地域住民の円滑なコミュニティの形成
- 留学生等の地域活動への参画を促進

(3) 学生と市民との連携交流による相互の活性化

糸島市内には九州大学の学生が約1,600人居住していると推計されています。これらの学生は、現在、勉学等に追われ、地域や市民との交流は少ない状況です。

一方、地域からの呼びかけに応じ、夏祭りや伝統行事等への参加によって地域の人々へ若い活力を与え、参加した学生も貴重な体験に感動する等、学生と市民との交流も徐々に進んでいます。

学生と市民との交流は、地域に活力をもたらすとともに、大学内のみでは難しい多世代交流を経験できる学生にとっては、伝統行事等を通じ貴重な体験をする機会にもなり、市民、学生

双方に大きなメリットがあることから、相互に情報提供を行い、一層の交流促進を図ります。

【 主な取組 】

- 九州大学サークル等と連携した交流事業等の実施
- 児童から社会人まで学びや交流を通じて多世代と関わり合う講座の開催
- 九州大学学生に対し市内のイベント情報等を発信することによる交流機会の増大

4 快適な生活空間を創造する都市基盤施設整備等の整備（都市づくり）

九州大学の伊都キャンパスへの移転完了後、大学を中心に約 17,500 人もの学生・教職員が活動する大きなまちが形成しています。

これを、市の活性化や経済効果へと波及させるためには、九州大学の学生・教職員等の本市への新たな定住が大きな課題です。

また、学生・教職員等の定住を進めるためには、公共交通機関であるバスの既存路線の増便や新規路線の拡充、JR筑肥線の駅との接続を含む、交通システムの充実が不可欠です。

同時に、アクセス道路の整備や波多江インターチェンジ（仮称）の設置促進等により、広域的な道路網を形成し、西九州自動車道及び国道 202 号へのアクセス強化を行い、併せて市街地道路の慢性的な渋滞の解消を図ります。

九州大学と関連が深い研究所や企業等の立地にあたっては、固定資産税の特例制度を活用し、立地を促進することで、糸島市の活性化と発展に大きく寄与することが期待されます。

また、情報通信における大容量の高速通信等を可能にすることは、定住や九州大学関連の研究機関等の立地を促進する場合の優位性が高まることから、整備に向けた促進を図ります。

（1）九州大学の学生・教職員等の定住促進

九州大学を生かしたまちづくりには、学生・教職員等に加え、九州大学に関連する研究所や企業等の関係者の市内への居住が重要な課題です。

九州大学の学生・教職員等の関係者の多くが居住するため、JR筑肥線沿線の前原東土地区画整理事業などを受け皿として整備します。加えて、九州大学に隣接した泊地区においても整備計画が進んでいます。

このような状況において、学生・教職員等の市内への定住を促進するため、教職員向けの情報発信などに取り組んで行く必要があります。

【 主な取組 】

- 九州大学教職員向けの定住促進等情報紙の発行
- 九州大学新入生の居住促進に向けた情報発信
- 学生等の居住促進と地域との交流に向けた空き家リノベーションサークルとの連携

(2) 道路交通網の整備と駅周辺の整備

① 主要幹線道路等（中央ルート、学園通線西回りルート）の整備促進

都市計画道路波多江泊線（中央ルート）は、国道202号バイパスの波多江地区を起点に、国道202号、県道津和崎潤線、県道福岡志摩線と交差し、伊都キャンパスまでを結ぶ南北の骨格軸です。

また、学園通線西回りルートは、前原インターチェンジを起点に、国道202号と交差し、県道福岡志摩線から伊都キャンパスまでを結ぶ骨格道路です。

これらの波多江泊線（中央ルート）や学園通り線西回りルート、国道202号バイパスが整備されることにより、路線沿線が持つポテンシャルを生かし、利便性向上や賑わいの創出など、都市的土地利用への誘導を図る必要があります。

このように、九州大学学術研究都市構想で示された道路交通網の完成をめざすことにより、九州大学と市との有機的な連携強化を図ります。

② 波多江インターチェンジ（仮称）の設置促進

前原インターチェンジは、市街地の南西部に位置し、福岡市方面から西九州自動車道を経由した九州大学へのアクセスと糸島市の市街地から福岡市方面へのアクセスが弱いため、中央ルートと直結する波多江地区に新たなインターチェンジを設置することについて、国（国土交通省）や福岡県等の関係機関に設置の要望活動を促進します。

【 主な取組 】

- 都市計画道路波多江泊線（中央ルート）及び学園通線西回りルートの整備の促進
- 九州大学学術研究都市の居住機能として（仮称）糸島市泊土地区画整理事業の推進
- （仮称）波多江インターチェンジの設置に向けた要望活動

(3) 九州大学連携地域の整備

① 分散型地域核「ほたる」の展開

九州大学学術研究都市構想では、教職員や学生の住宅、研究施設や企業等の立地について、大規模な開発ではなく、自然豊かな環境を極力保全し調和させた比較的小規模な開発を分散して行うこととしています。

この分散して立地を図る機能は、点在するイメージから、通称「ほたる」と名づけられており、九州大学の周辺で展開される多種多様な活動の受け皿となるもので、今後、研究系、居住系、工業系、レクリエーション系の立地を推進します。

この学術研究都市構想実現へ向け、九州大学連携地域において、豊かな自然や歴史の特性を最大限活用し、新たな大学文化と田園風景を調和させて、多くの「ほたる」の整備を推進します。

② 前原北部まちづくり

九州大学の門前町として泊カツラギ地区の地区計画の都市計画決定に伴い、レクリエーション施設や学生向けアパート等の建設が進み、九州大学南口泊研究団地を前原市土地開発公社が整備し工場等が立地しました。

さらに、人と地域の交流の場づくりである九州大学国際村構想に基づく九州大学国際寮、国際ホテルが建設され、大学門前町としての機能の一つである地域の国際化が進んでいます。

また、地元地権者や代表者で構成されている「前原北部まちづくり推進協議会」との連携協力を継続しながら、（仮称）糸島市泊土地区画整理事業を促進し、企業誘致や学生寮・生活利便施設の立地促進など、周囲の自然と調和したまちづくりを目指します。

③ 志摩東部まちづくり

伊都キャンパスに隣接しているこの地域は、中央ルート、学園通線西回りルートの整備が完了すると、西九州自動車道からのアクセスが向上します。

この地理的特性を生かし、すでに民間開発により志摩テクノパークが整備されており、ほぼすべての区画に企業が進出しています。

また、大学の基礎研究を実用化・事業化に結び付ける研究拠点構築「糸島サイエンス・ヴィレッジ構想」に基づく知の拠点づくりを、この地域を中心に展開していきます。

④ 前原インターチェンジ周辺及び国道202号バイパス沿線の整備【九州大学連携地域、工業・流通地域】

福岡都市高速道路と西九州自動車道が直結し、市から福岡市の中心部のみならず九州全域へのアクセスが向上しました。

このような交通利便性を生かし、糸島市土地開発公社が前原インターチェンジ付近に産業団地を整備し、福岡県が糸島リサーチパークを整備したことにより、福岡県やOPACK等と連携した、研究施設や企業の誘致を促進します。

さらに、前原インターチェンジや国道202号バイパス沿線については、製造業や流通産業等を誘致し、新たな団地開発や民間開発の促進を図ります。

【 主な取組 】

- 九州大学連携地域のまちづくり推進協議会の活動支援
- 糸島サイエンス・ヴィレッジ構想実現化に向けた取り組みの推進
- 前原インターチェンジ周辺地区や二丈武・松国地区での必要に応じた産業団地を整備

(4) 伊都キャンパスへのバス路線等の確保

これまでも大学移転の進捗に合わせて九大線の利用者数も増加傾向にあり、周船寺駅～産の宮～九州大学路線の新設、増便、大学におけるバス停の新設、車両購入や大型化などの取り組みを進めてきています。

しかし、アンケート調査結果等から朝夕の増便とダイヤの見直し等が要望される等、市への学生・教職員等の定住を促進するためにも、一層の増便や路線の拡充等の輸送力の強化が求められています。

【 主な取組 】

- コミュニティバス九大線の増便・ダイヤ変更等による利便性の向上
- 九州大学国際村構築に伴う路線の延伸

糸島市学術研究都市推進計画の主な取組一覧（担当課）

1 産学金官連携による産業の活性化や新産業の創出（産業づくり）

（1）農林水産業、商工業、観光業等の既存産業の活性化

- 糸島農業産学官連携推進協議会（アグリコラボいとしま）の機能充実（農業振興課）
 - 農林水産物の高付加価値化、6次産業化、販路拡大や流通体系の確立（農業振興課、農林水産課、商工観光課）
 - 高性能機械の導入、ICTやロボットなどの先進的な技術の導入（農業振興課、農林水産課）
 - 意欲的で優れた経営感覚を持った農林水産業者の育成（農業振興課、農林水産課）
 - あま伊都（BK シードレス）等農林水産物のブランド化（農業振興課、農林水産課、ブランド・学研都市推進課）
 - 「九州大学大学院生物資源環境科学府附属水産実験所」の糸島市への誘致（農林水産課）
 - 市内の企業・事業者間での情報共有や連携による市内受発注の拡大（商工観光課）
 - 産業間・産学金官連携などによる商品・サービスの高付加価値化（商工観光課）
 - 新規事業や創業時の経営課題の解消や経営力の向上に向けた支援制度の充実（商工観光課）
 - DMOを中心としたマーケティングに基づく体験型観光の充実（商工観光課）
 - 九州大学国際村構想による国際ホテル等を活用した滞在時間の延長や消費活動の拡大（商工観光課、ブランド・学研都市推進課）
 - 観光客の移動手段の確保や観光ガイド等おもてなし環境の充実（商工観光課）
 - いとしま国際観光大使による観光情報の発信（商工観光課）
- #### （2）九州大学の研究シーズを生かした研究施設や新産業の立地促進
- 九州大学やOPACKなどと連携した九州大学連携地域への研究機関や関連企業等の誘致（ブランド・学研都市推進課、商工観光課）
 - 立地企業への固定資産税の一定期間免除などの支援（ブランド・学研都市推進課、商工観光課）
 - 九州大学連携地域に都市計画法に基づく地区計画や区域指定などの取り組み（ブランド・学研都市推進課、都市計画課）

2 知的資源を活用した課題解決と地域資源の発掘（地域づくり）

（1）地域課題・行政課題の解決と地域資源の発掘

- 地域課題・行政課題の解決に向けた連携研究と研究成果の実用化（ブランド・学研都市推進課）
- 長期総合計画重点課題プロジェクトや各分野の個別計画に対応した研究事業の実施（ブランド・学研都市推進課）
- 大学・企業・地域住民等の交流の場の創出などイノベーションの推進（ブランド・学研都市推進課）
- フレイル予防事業の推進及び高齢者の保健事業と介護予防の一体的実施（介護・高齢者支援課）

（2）SDGsに基づく地域資源を生かした循環型社会の構築

- 温室効果ガス削減のための再生可能エネルギー利用設備の導入推進（生活環境課）
- 大学などと連携した市民の環境に対する意識啓発及び環境教育の充実（生活環境課）
- さまざまな資源を活用したエネルギー効率を上げる研究事業の実施（ブランド・学研都市推進課）

3 学生、教職員等と糸島市民との交流の促進（人づくり）

（1）九州大学を活用した市民が学べる機会の創出

- 九州大学教員による公開講座や講演、体験学習などの実施（ブランド・学研都市推進課）
- 九州大学学生による小中学生の学習応援「伊都塾」、「九大寺子屋」の実施・拡大（学校教育課、ブランド・学研都市推進課）
- 市との共同研究成果等を発表する機会の創出（ブランド・学研都市推進課）

（2）留学生等との交流による国際感覚の醸成と交流促進

- 糸島市国際交流協会等と連携した留学生等の市民まつり等への参加促進（地域振興課）
- 交流機会や活動の充実による留学生等と地域住民の円滑なコミュニティの形成（地域振興課）
- 留学生等の地域活動への参画を促進（地域振興課）

（3）学生と市民との連携交流による相互の活性化

- 九州大学サークル等と連携した交流事業等の実施（ブランド・学研都市推進課）
- 児童から社会人まで学びや交流を通じて多世代と関わり合う講座の開催（ブランド・学研都市推進課）
- 九州大学学生に対し市内のイベント情報等を発信することによる交流機会の増大（ブランド・学研都市推進課）

4 快適な生活空間を創造する都市基盤施設等の整備（都市づくり）

（1）九州大学の学生・教職員等の定住促進

- 九州大学教職員向けの定住促進情報紙の発行（ブランド・学研都市推進課）
- 九州大学新入生の居住促進に向けた情報発信（ブランド・学研都市推進課）
- 学生等の居住促進と地域との交流に向けた空き家リノベーションサークルとの連携（ブランド・学研都市推進課）

（2）道路交通網の整備と駅周辺の整備

- 都市計画道路波多江泊線（中央ルート）及び学園通線西回りルートの整備の促進（都市計画課）
- 九州大学学術研究都市の居住機能として(仮称)糸島市泊土地区画整理事業の推進（都市計画課）
- (仮称)波多江インターチェンジの設置に向けた要望活動（都市計画課）

（3）九州大学連携地域の整備

- 九州大学連携地域のまちづくり推進協議会の活動支援（ブランド・学研都市推進課）
- 糸島サイエンス・ヴィレッジ構想実現化に向けた取り組みの推進（ブランド・学研都市推進課）
- 前原インターチェンジ周辺地区や二丈武・松国地区での必要に応じた産業団地を整備（商工観光課）

（4）伊都キャンパスへのバス路線等の確保

- コミュニティバス九大線の増便・ダイヤ変更等による利便性の向上（地域振興課）
- 九州大学国際村構築に伴う路線の延伸（地域振興課）

第Ⅳ章 推進計画の推進体制

1 推進体制

(1) 九州大学と糸島市との連携協力推進協議会

平成22年5月に九州大学と市が締結した「国立大学法人九州大学と糸島市との連携協力に関する協定」に基づいて設置された「九州大学と糸島市との連携協力推進協議会」を積極的に活用し、協定の円滑な推進により、推進計画の実現を図ります。

(2) 福岡県、福岡市等の自治体との連携

中央ルートや学園通線西回りルート、波多江インターチェンジ（仮称）の設置等の都市基盤施設整備事業について、国、福岡県、九州大学の理解と支援が不可欠です。また、新産業の創出やベンチャー企業の立地には、高い専門性が必要となります。

このようなことから、九州大学をはじめ、研究所の設置や企業誘致に大きな実績を有する福岡県との連携を更に緊密にし、学術研究都市づくりをより一層促進します。

さらに、伊都キャンパスは、福岡市と本市の両市に立地しており、行政分野はもちろん、さまざまな分野において幅広く、また市域の枠を超えた交流が行われています。

今後も、伊都キャンパスが両市に立地している認識のもと、福岡市と今まで以上に連携協力を行うことで、更なる九州大学と地域の発展を図ります。

(3) 九州大学学術研究都市推進協議会との連携

九州大学学術研究都市推進協議会は、平成13年6月に九州大学学術研究都市の方向性を示した「九州大学学術研究都市構想」を策定しています。

この構想の実現を図るため、九州大学と福岡県、福岡市、糸島市、地元経済界で構成するOPACKを設立し、九州大学周辺の「まちづくり」及び研究所や企業などの誘致を行っています。

この推進計画は、中央ルート、学園通線西回りルート等の都市基盤整備や研究所、企業誘致等、九州大学学術研究都市構想を基本として、今後とも九州大学学術研究都市推進協議会とOPACKとの連携を図ります。

(4) 九州大学と糸島市との連携会議

平成26年4月に九州大学と市が締結した「組織対応型連携契約」により設置された「糸島市と九州大学との組織対応型連携契約に基づく連携会議」を積極的に活用し、産業の高度化や新産業の創出、地域課題の解決など地域の振興と九州大学の学術研究・教育活動の活性化を図り、九州大学との持続的な連携を推進します。



1km

糸島市

福岡市西区

志摩東部まちづくり
・糸島サイエンス・ヴィレッジ構想

志摩テクノパーク

九州大学伊都キャンパス

松隈地区地区計画

松隈行合地区地区計画

泊カツラギ地区地区計画
・九州大学南口泊研究団地
・糸島市九州大学国際村構想

馬場地区地区計画

糸島市交流プラザ志摩館

(仮称) 泊土地区画整理事業

学園通線西回りルート

前原北部まちづくり

中央ルート

九大学研都市駅

今宿駅

山路を登りながら

山路を登りながら

福岡市西部地域交流センター

西警察署

今宿IC

周船寺IC

周船寺駅

波多江駅周辺整備事業

糸島高校前駅

波多江駅

西九州自動車道

糸島市役所本庁舎

糸島警察署

前原東土地区画整理事業
(伊都の杜行政区)

美咲が丘駅

波多江インターチェンジ(仮称) 構想

加布里駅

前原IC地区北産業団地

国道202号

一貴山駅

前原IC地区南産業団地

J R 筑肥線

武工業団地

前原西部地区産業団地(仮称)

糸島リサーチパーク
・水素エネルギー製品試験センター
・三次元半導体研究センター
・社会システム実証センター

筑前深江駅

糸島市交流プラザ二丈館

九州大学学術研究都市関連の主な都市基盤整備図(糸島市)

唐津市